

園児の能力調査 (三)

幼稚園長 望 月 夕 二

数の観念(計算)

数の観念と云へば一、二、三、四と数の名稱を系統的に呼ぶことのように思はれてゐますが、これは單に記憶でありまして、観念とは、お菓子やお玩具を數へることから始まつて、一つ／＼又一つと數へる動作を反復するので、心の働の上から相違しております、それがために割合むつかしく、年齢の少ないもの程、数の観念が少なくなりませす。計算の方から調べて見ますと、数の観念のある丈は加減の計算が明かに出來ますから、幼兒の数の観念と計算とは一致すると思ひます。これを調べるには、二人の子供を膝下に呼び、貝の如き數の多いものを置き、「ソノ貝ヲ一ツ下サイ」「二ツ下サイ」と云ひ、子供に取つて貰ふのです。小供が三つより數へ得ない時即ち「四ツ下サイ」といへばグジャッと摺んで澤山に呉れます。それでもはや數の観念は分ります。多といふ観念は智ある動物でも幼い子供でもありますが、それは何個

といふのではなく不定に多と考へるのであります。数の観念程、個人差の多いものはありません。或る小供は一つも數へられないのに、或る子供は百千の數を教へられずして十進的に分類して、一つが十十が十、十が十のかたまりが十などと數へるものもありません。百千といふ語は知らないが、確かに觀念としてはあると思ひます。今一つ位より教へられない子供を導いて普通の標準に達せしめやうとするには、矢張りお菓子を興へる時に數へさせたり、又その外何物でも數へさせる様にすれば反復によつて自然に發達して參ります。

昨年四月、新に入園した子供とその子供達が八ヶ月後との發達の仕方を調査したものを左に御目にかけます。

數觀念調査

年齢	性別	人員	調査時期
五年	男	一八	大正八年四月
			大正八年十一月
		六	一〇

六年	女	男	女
	二四	二八	一八
	一三	一〇	五
	二〇	二〇	一〇

此の表に表はれたのは極めて簡單ながら、此の八ヶ月間に於て確實に五年の十、六年の二十迄は發達して居ります。これは前に記した通り玩具や木の葉や石等を山下遊び園内で遊ぶ時にいつも數へさせた結果であります。六歳の男兒の中百まで數へ得るもの各々三名あり、五年十五まで數へ得るもの男七名女三名あり、十九迄數へるもの男に二名ありました。

圖 畫

子供の圖畫は其の精神内容を物語るもので、子供が云はんと欲することを發表するのでありますから、大人の文章と異なることはありません。元來この圖畫といふものは技術のものとして考へることも出來、又藝術的の意味からも見ることが出來ますし、其の他色々の見地から見ると出來ますが、私共は子供が如何にも樂しそうに彼等の筋肉活動に訴へて描出した圖畫からその精神の内容が如何に表現され

るかと思ふことを調べて彼等を適當に教育してやりたいと思ふの外はありません。そこで他の智能検査と同じく四月の始め入園當時と十一月とに行ひました。先づ幼兒に長い鉛筆と一枚の畫用紙を與へ「人を描いてごらんなさい」と申しました。然しこれ丈ではあまり簡單で理解しにくいと思ひまして、重ねて「あなたのおとうさんでも、おかあさまでもおねえさまでも誰でもよろしいから書いてごらん」と申しました。中には今まで既に家庭で鉛筆や用紙を玩具として與へられて居たものもある様に見受けられましたが、又、初めての様なものもありました。初めての者の方が心に形式が出來てゐなくて却つて能く精神内容が解つて好都合でありました。出來上つた彼等の繪は極めて簡單なものでありましたが、それは即ち幼兒の心の中にある人といふものに對する觀念が現はれて居るのでありまして幼兒の日常の觀察力や意志活動の程度と正比例するもの故これによつて子供の性質や環象を考へ合せ、一人／＼の指導の羅針盤とするので、左の第一表を見ますと幼兒の最も注意して居るのは、目鼻口にして他の各部も僅に八箇月の間に其の精神内容の頗る豊富になつて來たこ

圖畫調査(第一表)

年齢	性	人員調査時	目	鼻	口	足	胴	手	肩	耳	衣	髪	齒	首	履物	帶	襪	ヒゲ	ヘソ	襟	帽子	乳	附屬	
年六	男	三三	四月 十一月 一〇〇	九五	八二	七六	七一	六六	五八	一六	一六	二〇	二	五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	六
年六	女	二九	四月 十一月 一〇〇	九三	九〇	一九	六六	五五	六六	一四	三二	二八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	三	一	一
年五	男	一八	四月 十一月 一〇〇	七二	七二	五六	一七	一一	五〇	一一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
年五	女	二二	四月 十一月 一〇〇	六四	五〇	三八	二七	三六	四一	九	五	六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

圖畫調査(第二表) 即ち品等より見たるもの

年齢	性	人員	調査時	品等
年六	男	二九	四月 七月 一〇〇	一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇、一一、一二、一三、一四、一五、一六、一七、一八、一九、二〇、二一、二二、二三、二四、二五、二六、二七、二八、二九、三〇、三一、三二、三三、三四、三五、三六、三七、三八、三九、四〇、四一、四二、四三、四四、四五、四六、四七、四八、四九、五〇、五一、五二、五三、五四、五五、五六、五七、五八、五九、六〇、六一、六二、六三、六四、六五、六六、六七、六八、六九、七〇、七一、七二、七三、七四、七五、七六、七七、七八、七九、八〇、八一、八二、八三、八四、八五、八六、八七、八八、八九、九〇、九一、九二、九三、九四、九五、九六、九七、九八、九九、一〇〇
年六	女	二九	四月 七月 一〇〇	一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇、一一、一二、一三、一四、一五、一六、一七、一八、一九、二〇、二一、二二、二三、二四、二五、二六、二七、二八、二九、三〇、三一、三二、三三、三四、三五、三六、三七、三八、三九、四〇、四一、四二、四三、四四、四五、四六、四七、四八、四九、五〇、五一、五二、五三、五四、五五、五六、五七、五八、五九、六〇、六一、六二、六三、六四、六五、六六、六七、六八、六九、七〇、七一、七二、七三、七四、七五、七六、七七、七八、七九、八〇、八一、八二、八三、八四、八五、八六、八七、八八、八九、九〇、九一、九二、九三、九四、九五、九六、九七、九八、九九、一〇〇

とは驚く許り、衣服の模様履物などに注意を及ぼす様になつたことを知ることが出来る。又第二にはこの繪の描寫力を畫的見地から見ることに致しまし

年五	男	女
四月	一八	二二
七月	一	三
十月	三八	三一
一月	二二	三一
二月	五〇	二五
三月	一三	一三
四月	二八	一三

た、即ち之を形式と内容と技術との上から見て、子供のいたものがどの程度であるかと云ふことを調査した結果が左の第二表の通りであります。

畫的見地より見たるこの繪畫を形式、内容、技術の上より分類し品等を定めると四月初めに於ては全く錯畫にして何等の意味をも見出し得ざりしが六年男女兒五年男女兒の進歩は驚く許りであつて一等、二等、三等と雖も其の描寫力の發達の著しいことを知ることが出来るのであります。幼兒期に於ては精神上の變化の早いことがこれに依つても分ります。幼兒にとつては八箇月といふ日子は實に貴重のものであります。然も其の進歩の仕方は始めに於て(四月)幼稚なりし者程却て著しき發達を遂げてゐる、四月に於て或る程度迄進歩し居たりし者は八箇月以後に於ても其の發達は少なく形式に於て僅かに發達し衣服の模様等に觀察が及んで居る中で、内容にはたいた進歩を現はさないものであります。筆力は餘ほど雄健に成つて居るが、或は此の年齢に於ける發達の頂點に達したものがかとも考へらるゝのであります。以上記せる如く今日私共が眞に子供達を保護教養しようとするには、どうしても其の年齢相當の發

達を精査し、之に順應し指導せねばならぬ。若しも近頃流行する早教育の様に、早くより子供を引延さうとするならば、それは恰も水田に泳いで居る「オタマジャクシ」がやがて蛙になるからとて、一足飛びに陸上を飛ばしめたなら遂には生命を失ふに至ると同一で、頗る危険な事ではありませんか。世の中には動かすことの出来ない自然の原則があるのにも拘はらず、之を研究せずして、子供を教育することが出来ませうか。この自然の原則に應じた教育といふは即ち兒童の心身の發達につれて、彼等の内部から湧き出づる遊戲的興味であつて、それが自然に彼等に彼等の行くべき道を教へるから、教育者は唯其の道案内となつて軽く彼等に觸れて居ればよいのであります。併し斯る調査を報告する時は、幼稚園教育が體育情育を忘れて智的に導くために保姆が苦心して居ると誤解せらるゝおそれもありますが、最初にも少しく記した通り幼兒期に於ける最も重き事は、身體を強健にする事であり、美しい環境の中で情育をするのであります。此の時期の幼兒は、自己の内部より自然に活動を起し發展し恰も肉體が饑渴を感ずる時の如く、多方面に興味を感ずるを以つて、その要求に應じて智的にも兒童の自然的發達を遂げしむる事は、これが即ち幼稚園教育であると信じて居る次第であります。

(終り)